

あなたとお寺をむすぶ架け橋、お寺の元気をお届けします

得度式とは

得度式とは、お坊さんの入門の儀式です。正式な作法を通して、僧侶にふさわしい姿となることによって、仏道をあゆむ決意を示します。儀式では、師匠（ししょう・住職）によって、髪を剃り落としてもらい、衣（ころも）、袈裟（けさ）、坐具（ざぐ）、応量器（食器）などの、僧侶として



生きていくために必要な最低限のものを授けられます。そして、さらにお釈迦さま以来、歴代の祖師たちがひとえに伝えてきた「戒法（かいほう）」と「血脈（けちみやく）」とを受けて、正式に僧侶の仲間入りをするのです。



◀お盆のお墓参りでは、短いお経を覚え、お坊さんの格好をさせてもらっていましたが、この儀式以降は正式なお坊さんの仲間入り。

得度式が 11月20日(日) に行われます

儀式の流れ

1 礼拝・剃髪

お釈迦さま・師匠・父母に礼拝し、剃髪の儀式をします。



2 袈裟・鉢などの授与

お坊さんとして生きていくために必要なものを授かります。



おけさ



おうりょうき (食事の器)

3 授戒

お釈迦さまから弟子へ、そのまた弟子へ、代々伝えられてきた、よき習慣（戒・かい）を私も守って生きていきますという志をもち、その証となる血脈を授与されます。



佛祖正傳 善法大戒 けちみやく

剃髪し、お袈裟をいただくことで僧侶となります。しかし、見かけがお坊さんでも、その人を「お坊さん」と思っただけのような生き方をしていかなければなりません。どうぞ、たくさんの方に見守ってもらい、僧侶としての第一歩を踏み出してもらいたいと願っています。

お寺のできごと



子どものための坐禅会 寺こや自然塾は今年で13回目を迎えました。

8月20日(土)今年で13回目となる「寺こや自然塾」が開催されました！函館市や北斗市の地元小学生34名が集い、読経や坐禅、お寺宝さがし、花火をして楽しみました。ほんとうは一泊の行事ですが、コロナ期間中は日帰りに。今回は特に第7波を前に夏休み期間での開催を延長し、時間も短縮し、食事もとらずに行うものとなりましたが、それでも、お寺に来てもらうだけでも、という気持ちでした。お陰様で、たくさんの方に支えられながら無事終了することができました。

お盆の準備に成年会、婦人会の方が来てくださいました！（婦人会の写真を取り忘れてしまいました…）積み団子作りやお供え物の準備、境内では看板設置とお寺の行事を支えていただいております。



フードパントリーも継続して行われています。皆様からいただくお米やお菓子、食品を必要な世帯の方にお渡ししています。コロナの状況を見ながら、子ども食堂を再開しつつあります。週末、学校の無い日

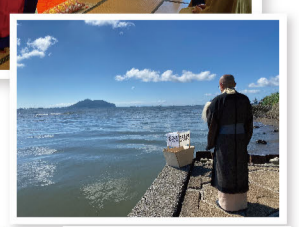
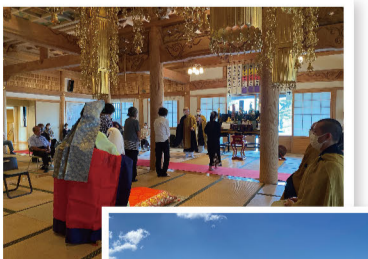
に子どもたちに昼食を定期的に食べてもらう事ができたら…。小規模で続けていきたいので、興味・関心ある方、是非是非お手伝いいただければ嬉しいです！

秋のお彼岸のお寺参りでは、ペット供養合同慰霊祭もお勤めされました。が、なんと4年連続の雨…。埋骨予定だった方も翌日に改めることに…。また、今回は法要終わって、津軽三味線演奏者の笹森晃大さんとそのお仲間による民謡が披露されました。秋のお参りでは楽しいこともしていきたいですね！

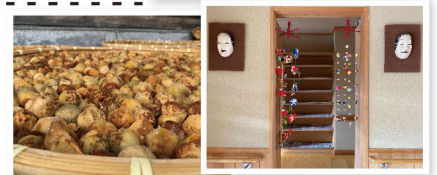
お盆のお墓参り



お盆のお寺参りの様子。新亡のご供養のためにいつもよりも多くのお参りの方が焼香に来られました。終って、水塔婆を海に流すのですが、今年から環境保全の観点から海で読経するのみにさせていただきます。



お盆終わって住職は梅を干しました。お檀家の方が吊るし雛をお寺に飾ってくれましたよ！



Facebookで毎日更新中！ 禅エッセイ



一周忌のことを別名「小祥忌(しょうじょうき)」ともいいます。三回忌は「大祥忌(だいじょうき)」。そのように言う、というだけでなぜそのように言うのかまでは教えられない。

亡くなって一年でなぜ「すこしめでたい」のか。亡くなって二年でなぜ「大いにめでたい」のか。胸に温めて法事をつとめていて、ふと感じるところがありました。大切な人が亡くなって、一年経って、家族親戚がお互いに支え合って一日一日どうにか過ごし、今日という日を迎えることができた。そのことが「めでたい」ではないか、と。なんでもなく当たり前のように目の前の家族がお箸を持ち、ご飯を食べ、話している、そのことがなんでないことではないように感じる。亡き人の忌日に立ち止まり、手を合わせるといふことは、そのような、当たり前が当たり前ではないということに、立ち返る、時間と場所を共にすることなのでしょう。

いずれはこの中の誰かが次に旅立たなくてははいけない。そしてそれが年齢順ではないということは毎日のニュースが教えてくれるところです。今日も一日心穏やかに過ごせますように。

健康コラム インストラクター / 水戸麻衣子先生

要介護ゼロの街をめざす水戸麻衣子先生による健康体操。今回は、「転倒予防」のための動作をご紹介します。



日常生活では後ろに下がるという動作をあまりしないので、バランス感覚を養ったり、足がきちんと上がっているか確認できる動作です。



① 右手をイスにつかまりながら、右足を枠の中に入れ、戻す動作です。



② 次は左足。枠を踏まないように、気をつけます。

③ 今度は右、左両足を順番に入れて、右、左の順番で後ろに下がります(連続15回)。

④ イスを左手側に置き換えて同じ動作です(連続15回)。

ポイント 足がしっかり上がっていますか??

右のQRコードをスマホで読み取っていただくと、動画が再生されます。



知って納得。

お経のはなし 「般若心経 その1」



まかはんにやはらみたしんぎょう
今回ご紹介するお経は、日本で一番有名なお経「摩訶般若波羅蜜多心経」です。わずか276文字の中に、仏教のエッセンスが凝縮されているので、いくつもの切り口があります。曹洞宗ばかりでなく多くの宗派で読まれますが、浄土真宗や日蓮宗では読まれません。

誰が説いたお経? ▶ 観音さまがお釈迦さまの弟子に説いたお経です。

意外と語られることがないですが、般若心経は変わっていて、お釈迦さまが説いたお経、ではなく、観音さまがお釈迦さまの弟子に説いているお経です。何が風変わりかというと、観音さまとは菩薩(ぼさつ)さまのこと。そもそもお釈迦さまも菩薩として修行してブツダ(仏)となりました。菩薩とは、お釈迦さまのようなブツダ(仏)になるよう、生まれ変わり死に変わりしながら、いっしょうけんめいに菩薩の修行をつづけている人です。どんな悪人だって、どんな性格の人だって、仏としての生き方を志した人ならばみな「菩薩(ぼさつ)」。対するお釈迦さまの弟子は、阿羅漢(アラカン)といって、ブツダ(仏)に限りなく近い、もうブツダと言ってもいいくらいの修行をつんだ方(聖者)です。特に、般若心経中に出てくるサーリブツタというお弟子さんは智慧第一のお弟子さんともいわれ、そのような深い智慧をそなえた聖者に対して、菩薩が説教をする、というのが般若心経の大きな構成です。お相撲の世界でたとえていうならば、まだまだ幕下の力士が横綱に対して「きみ、相撲というものはだね…」と講釈をするようなものです。



なぜ菩薩がアラカンに説教を? ▶ お釈迦さまの教えは、実際の間人社会に生きる人のためのもの。

2500年前インドで活躍されたお釈迦さまは死後、たくさんの弟子たちによって、その教えが伝えられ、整理され注釈が作られ、僧侶として一緒に生活する上でのルールが定められていきました。一般社会の中で教えを説いていったお釈迦さまでしたが、没後、お坊さんたちは教えの議論と自分たちの悟りのためだけに修行するようになり、一般社会との関わりが少なくなっていきました。今苦しんでいる自分をどうすればよいのか、という実際的な問題が学問的なものとなってしまった。「いやいや、お釈迦さまの教えはそのようではなかった。もっと現実の苦によりそっていたはず。お釈迦さまももとは菩薩であったのだから、菩薩としての修行を私もつづけていけば30年後…はむずかしいかもしれないけれど、来世、いや来世…いつかはブツダ(仏)になれる」という仏教の捉え方(大乘仏教といいます)が主流になり、そこで書かれていったお経群を大乘仏典(だいじょうぶつてん)といいます。「般若経(はんにやぎょう)」をはじめ、「法華経(ほけきょう)」「維摩経(ゆいまきょう)」「華嚴経(けごんきょう)」などなど、今でも一般に日本で親しまれているお経です。般若心経もその流れの中で書かれていったお経なのです。

…TO BE CONTINUED… つづく

秋のお寺の行事予定

10/22(土) 11/26(土) 12/3(土)

お寺でボディメイク 午後6時半より(1時間)

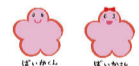
シルバー世代への体操を指導している水戸麻衣子先生がインストラクター

寺加替千円 費予約



新型コロナウイルス感染防止対策として、行事の参加にはマスクの着用・手指の消毒をお勧めしております。各行事は十分な換気・ソーシャルディスタンスを考慮した内容としております。体調不調ある方は行事の参加をお控えください。感染状況を鑑みて行事を中止する場合がございます。

梅花流詠賛歌



御詠歌(ごえいか)をいっしょにお唱える仲間を探しています。お仕事でいそがしいその手を休め、おかし懐かしい日本のメロディーを楽しみませんか??

朝のおつとめ

毎朝6時40分より本堂にて朝のおつとめをしています。15分ほどです。手ぶらでお越しください。何も無い本堂に身をゆだねるところから一日をさわやかに始めてみましょう。

仏事

Q&A キューアンドエー

Q. 「実家のお墓に入りたいのですが？」

A. 「お墓の管理者との相談です」

最近耳にする相談で、「嫁ぎ先のお墓に入りたいくない」というものがあります。お墓というのが家族から個人になってきているのだな、と実感しています。まず、お墓については「この人は入ってはダメ」「この人はイイ」という基準ものはありません。お墓を管理している方が承諾していれば、どなたでも入ることができます。極端

な話、友人など血縁関係がない人も入ることができます。ただ、いろんな方が入っていると、だれが供養していくのか、あやふやになっていくでしょうし、親戚関係で何かあればトラブルも起きやすい。お墓の管理者が家族親戚とよく相談したうえで決めていくのがいいでしょう。

Q. 「ペットと一緒にお墓に入れますか？」

仏教的にはダメ、かもしれませんが、禅宗的には

問題ない。ですがやはりこれも家族親戚との問題で、そのペットと飼い主との絆が他の親戚、あるいは祖先・子孫に納得されるか、ということがあります。ペットと一緒に入れるお墓というものが最近ありますから、そのようなお墓を選ぶ必要があります。いずれにしても、お墓が個人のためのものになってきている、というのが最近の流れのようです。